

にしぎ!!

都賀川

都賀川総合学習資料



兵庫県神戸県民局

はじめに

灘区の中心を流れる都賀川は、都市河川には珍しく川遊びが出来、天然のアユも遡上する川として有名です。夏の間は子どもたちの絶好の遊び場となるほか、川の脇に設けられた遊歩道は散策路として地域の人々に親しまれています。

現在の都賀川は、都市の中に潤いをもたらす、灘区のシンボリックな川ですが、かつては生活排水等が流れ込み「死の川」とまでよばれた時期もありました。その後、「川の再生」を望む住民の活動や、行政による河川整備が行われてきた結果、現在の姿へと再生することができたのです。

「再生の歴史」を持ち、自分達の住む地域を流れる都賀川は、子ども達にとって身近な素材として総合学習で扱われることも少なくありません。しかし、その一方で、学習を行うための情報を集めることが困難であり、まとまった資料が必要とされていました。

本書は、こうしたニーズに応え、気軽に手にとっていただける資料として、先生方のご意見も頂きつつ作成したものです。また、子ども達の自由な発想と好奇心にも対応できるよう、都賀川に関することのみにとどまらず、都賀川を軸に関連するテーマを広く扱った内容となっています。

「参画と協働」や「都市の中の自然」、震災の経験を生かした「防災の工夫」など、都賀川を素材とする学習には様々な切り口が考えられます。本書が、自在なテーマで、充実した学習を展開していただくための一助となれば幸いです。

平成 17 年 3 月

兵庫県神戸県民局長 藤原 正治

本書の特徴・使い方

本書は、概ね5つの章から構成されています。

1～3章では、それぞれ「都賀川を守ろう会」、「自然」、「災害と河川整備」を基軸に都賀川をひもときます。あるトピックに関連する内容が、他の場所で詳述されている場合には、常に参照先を示してあるので、どこから読み始めても関連する情報を見落とす心配はありません。4章では、都賀川で行うことができる体験学習のメニューを提示しています。最後の5章は、総合学習を進める上で有用と思われる手法を紹介しています。

また、本書の特徴として、子ども達が興味を抱くきっかけとなりうる疑問や問いかけなどを、通常の見出しとは別に3種類のアイコンとともに提示しています。3種類のアイコンとその意味は、それぞれ以下のとおりになっています。



疑問（なぜだろう？ / 考えてみよう？）

子ども達が感じると思われる疑問や、自分なりの答えを考えてもらうための助けとなるであろう問いかけを示しています。



発展

他のテーマにつながるとと思われる疑問や問いかけ、発展性を示しています。ここで示される内容は、全て本書中でフォローされています。



追求（さらに詳しく / 実際にやってみよう！）

本書中では扱わないものの、追求することで他のテーマにつながっていく疑問や、実際の行動の導きなどを示しています。

なお、巻末には用語集、参考文献、疑問の索引を整理しました。

用語集：専門的な用語や、事象を理解して頂くために必要なキーワードには下線（波線）を引き、巻末に用語集としてまとめました。

参考文献：文中の記述に利用した資料は、出典を巻末に記してありますので、調べ学習の際などにご活用下さい。

都賀川のはてな：文中で提示した「疑問」を巻末に索引として整理しましたので、ここから気になるトピックを探していただけます。

都賀川の魅力

「地域と共によりづく川」

現在では、アユが遡上してくるほどに清冽な川として知られている都賀川も、昭和40～50年頃はいわゆるドブ川でした。

元来、都賀川下流域の西郷は「灘五郷」にかぞえられる、伝統的に酒造りの行われてきた地域であり、都賀川も子どもが魚とりや水遊びをするような清流でした。しかし、高度成長期にはいると、ゴミの不法投棄や生活排水の垂れ流しが増え、川は汚れ、省みられることもなくなっていました。

現在の都賀川の姿は、昭和51年に発足した「都賀川を守ろう」会を中心に行われてきた河川清掃・啓発活動や、河川改修における生物の生息に配慮した工法の工夫など、地域住民と行政の協力が実を結んだ結果といえます。

いま都賀川には、夏には川遊びに興じる子ども達の歓声が戻ってきています。その他にも各種のイベントが行われるなど、地域住民の「集い」・「遊び」・「交流」の場として機能しています。また、河道内に整備された道路は心地よい散策の場であり、国道や線路で分断された南北コミュニティをつなぐ役目も果たしています。

都賀川には、アユなどの生息を可能にするため様々な工夫がされています。そうした工夫によって水流が確保され、構造的にも水面に近づきやすかったことから、阪神淡路大震災時には市民のライフライン（水がめ）として活用されました。命を「育み」・「守る」場としての都賀川の姿がそこにはあります。

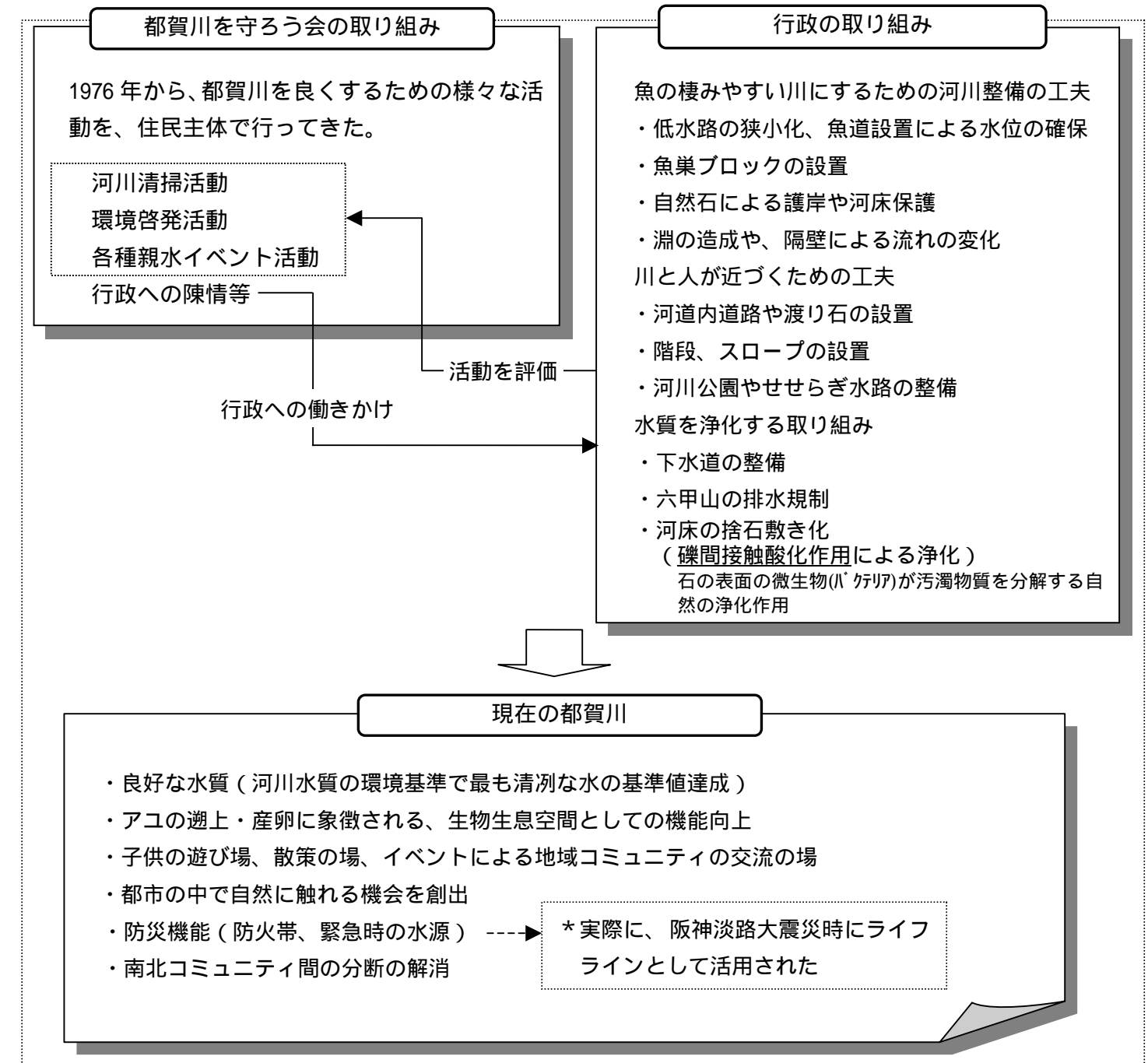
都賀川は、地域の人々の努力と、行政の協力によって再生することができました。地域の人々が川を身近に感じ、行動してきたからこそ、その魅力を増してくることが出来たのです。言いかえるならば、「川と人との良好な関係」こそが都賀川の大きな魅力といえるでしょう。

都賀川の風景



昭和40～50年頃の都賀川
生活排水が流れ込んで悪臭を放ち、ゴミの不法投棄も多かった。

「川と人との良好な関係」が都賀川の魅力



都賀川「人と川の関係」

1. 都賀川と「都賀川を守ろう会」

現在、都賀川では沿川町内会や小学生が清掃活動を行うなど、様々な主体による環境保全活動が行われるようになってきました。

こうした活動の草分けである「都賀川を守ろう会」の活動を中心に、都賀川の汚染と再生の歴史や、再生のためにどのような取り組みがなされてきたのかをふり返ります。

都賀川を守ろう会の原点と願い	1-1
都賀川を守ろう会の活動	1-3

2. 都賀川の「自然」

再生した都賀川の「都市内の自然」としての側面と、その背景である六甲の自然や地形の状況についてまとめます。

都賀川に生息する生物	2-1
都賀川の生息環境	2-16
都賀川の上流部	2-23
森林と水	2-24
六甲の自然	2-26

3. 災害と河川整備

過去に神戸で起こった自然災害をふり返ると共に、都賀川にどのような改修・整備が行われてきたのかをまとめます。

水害	3-1
阪神・淡路大震災	3-10
河川改修の歴史	3-12
資料編 都賀川関連河川改修	3-29

4. 体験学習メニュー

5. ワークショップ手法について

用語集

参考文献

都賀川のはてな